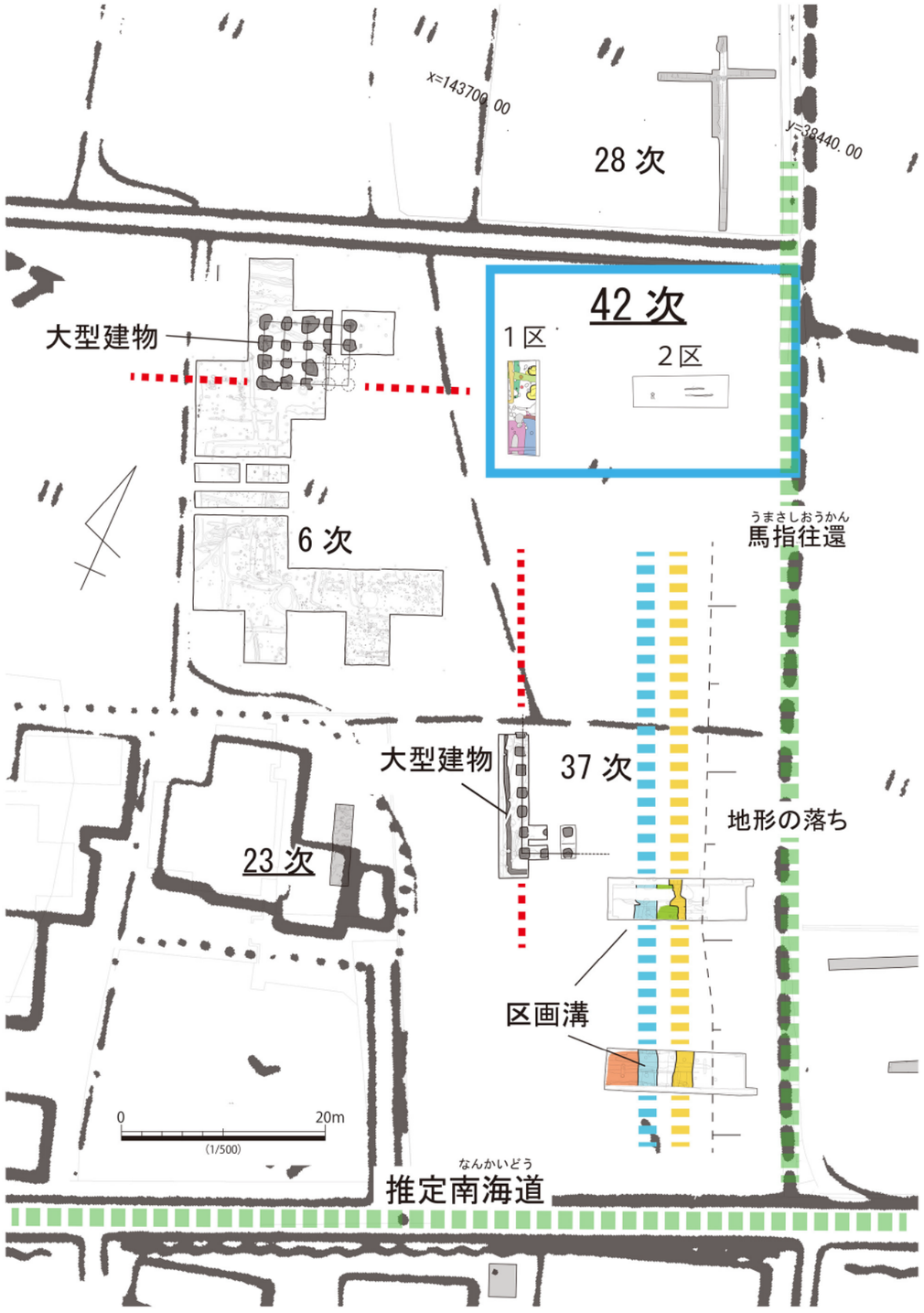


▲ 42次調査とその周辺の調査地

『令和６年度　讃岐国府跡４２次調査　現地説明会資料』　令和６年12月21日
編集・発行　香川県埋蔵文化財センター
〒762－0024　香川県坂出市府中町南谷字 5001－4　TEL:0877-48-2191　FAX:0877-48-3249
Email: maibun@pref.kagawa.lg.jp　https://www.pref.kagawa.lg.jp/maibun/

令和６年度　讃岐国府跡第 42 次調査　現地説明会資料

令和６年 12 月 21 日
香川県埋蔵文化財センター

１．讃岐国府とは

国府は、古代に置かれた 66 ヶ国２島を統治した役所です。国府には、儀式や政治を行う中心施設である政庁（国庁）や、実務のための施設（国衙）、国府の長である国司の館等の施設によって構成されます。讃岐国府は、坂出市府中町に所在していました。

讃岐国府は、９世紀には実務型国司（良吏）が多く赴任し、地方政治の改革を進めました。菅原道真はその代表的な人物です。また、中央の政治動向とも密接にかかわり、崇徳上皇（1164 没）が晩年を過ごしたゆかりの地として知られています。国府が鎌倉時代いっぱいまで続くことは、発掘成果からも確認されています。

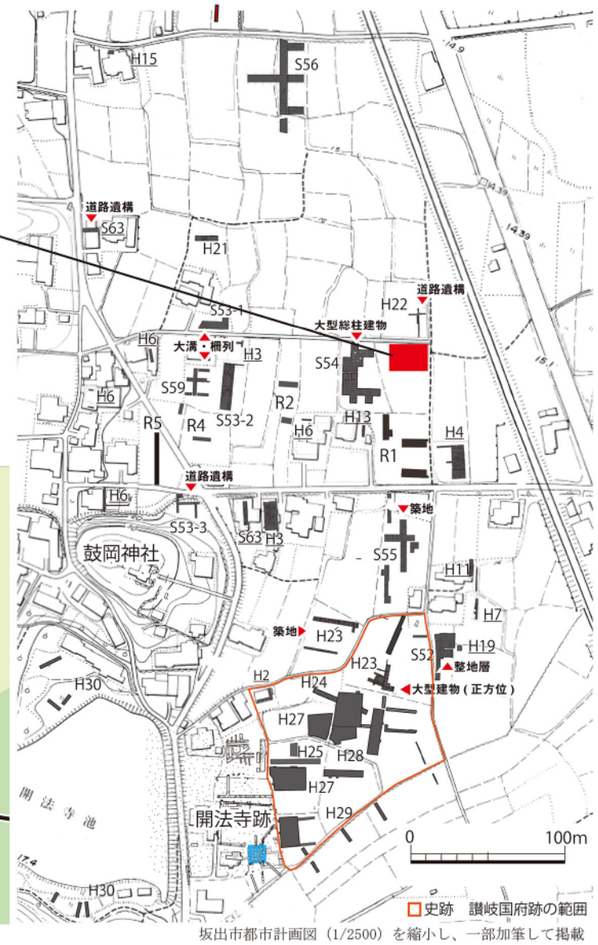
讃岐国府のそばには南海道の河内駅家もあったとされ、また国府の横を流れる綾川は、河口部の国府津にもつながっています。このように水陸の交通の要衝であったといえます。

香川県埋蔵文化財センターでは、讃岐国府跡の広がりの確認や、主要施設推定地の実態の解明を目的とする発掘調査を、平成 21 年度から行っています。

今回の調査地点

今回の調査地点は、令和元年度に実施した 37 次調査地の北側に位置します。37 次調査で見つかっている大型掘立柱建物や、施設を区画すると見られる溝跡に関連する遺構を確認することなどが、おもな調査の目的です。

▲ 讃岐国府周辺の歴史的環境



坂出市都市計画図（1/2500）を縮小し、一部加筆して掲載

▲ 既往調査地と今次調査地

2．なぜこの場所で調査をするの？

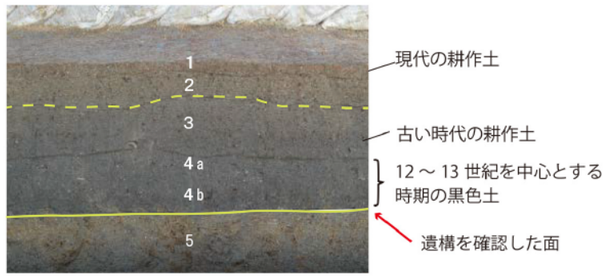
今回の調査地は、国府跡推定地の中心部、国府の中軸線とされる南北道路「馬指往還（うまさしおうかん）」と、古代の官道である南海道に推定される東西道路の交差点にあります。周辺には、国府の印と印を納める櫃もしくは倉庫の鍵を意味する「印鑰（いんやく）」という地名が残っています。さらに、これまでの発掘調査の成果から、区画溝や築地塀で囲まれた、一辺 70mを超える大きな区画がある可能性も指摘されています。

これらのことから、今回の調査地は国府の重要な施設が存在する可能性が高い区画と考えられてきました。その実態を把握するため、今年度調査を実施することになりました。

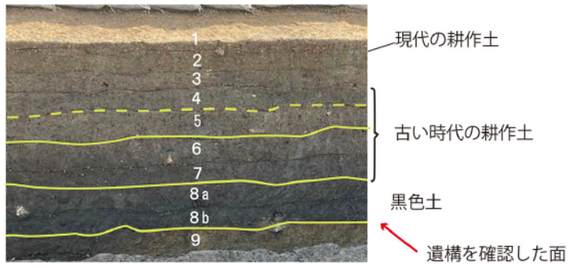
3．調査の成果

調査地に堆積（たいせき）している地層

【１区】現代の耕作土（田んぼの土）の下に、古い時代の耕作土、平安時代の終わりから鎌倉時代（12～13世紀）の遺物をたくさん含む黒色土層（４層）、黄色砂質土（５層）が堆積しています。



【２区】現代の耕作土の下に、古い時代の耕作土、黒色土層（８層）、黄色砂質土層（９層）が堆積しています。



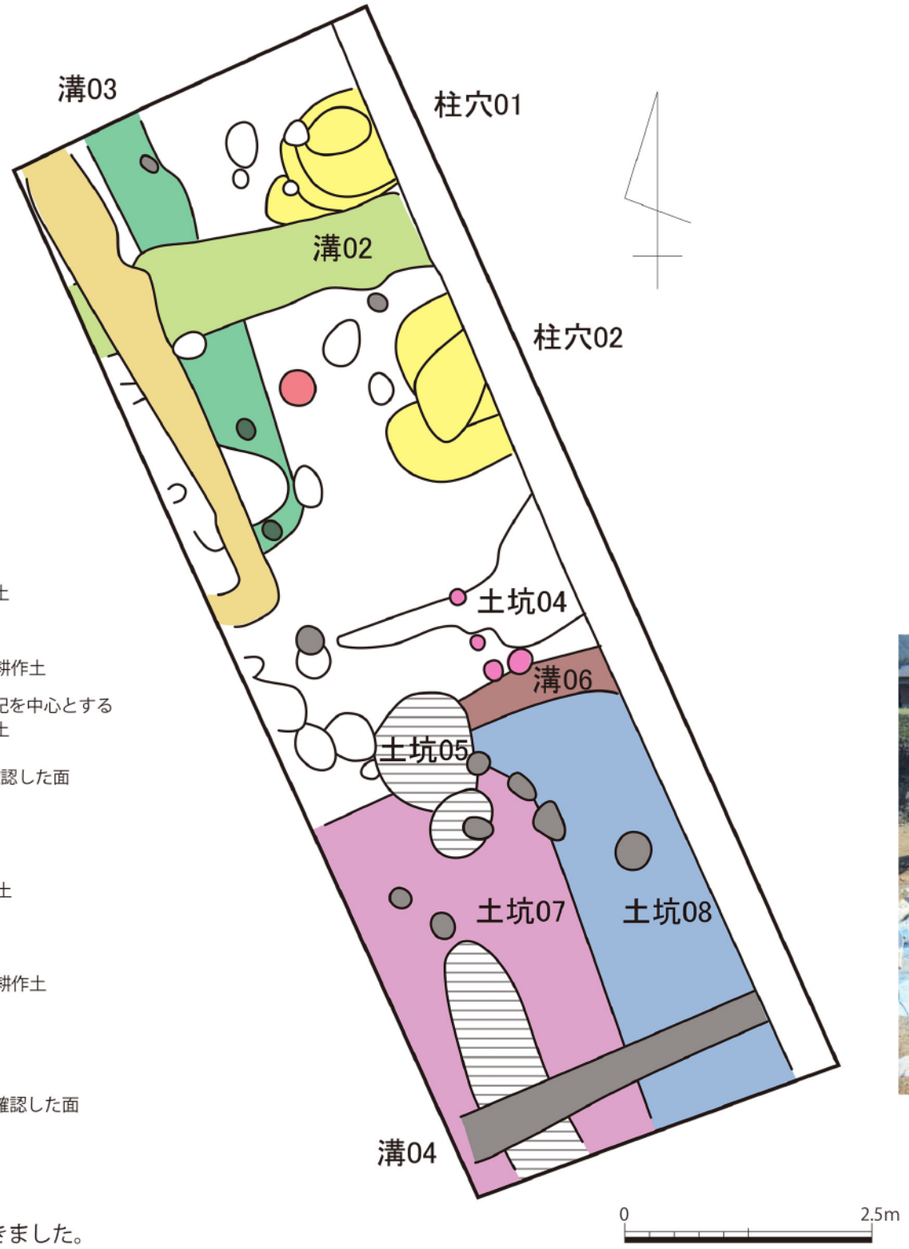
これまでのおもな調査成果と今後の予定

【１区】５層の上面で、たくさんの溝や土坑・柱の跡などが重なりあっている状況が確認できました。

これまでに周辺でおこなった調査の成果と比べると、６次調査でみつかっている遺構の状況と似ているようです。これからの調査で、遺構を発掘して、その構造を確認するとともに、出土する遺物などから遺構の時期を検討する予定です。

【２区】 37 次調査で見つかった地形の落ち込みの延長線上に、同じような落ち込みがあることを確認できました。これからもう一層、地層を掘り下げて、この地形がどのように広がっているのか、また他の遺構の有無などを確認する予定です。

▲ 2区　南壁の地層（北東から）



▲ 1区　遺構平面図

※埋まっている土の種類ごとに色分けしています
※遺構の形は今後の調査によって変更の可能性があります

１区　遺構検出状況（北から）

１区　４層を掘り下げる様子

遺物が出土した位置を細かく把握するため、１m四方のマス目を設定し、マス目ごとに人力で掘削して遺物を取り上げました。土師器（はじき）や黒色土器（こくしょくどき）、瓦器（がき）、須恵器（すえき）のほか、白磁（はくじ）・青磁（せいじ）、銅銭（どうせん）・鉄滓（てっさい）など、大量の遺物が出土しています。

用語解説

遺構（いこう）：地面に残された人間の生活の痕跡を「遺構」といいます。具体的には、柱の跡やゴミ穴、竪穴建物（たてあなたてもの）などがあります。発掘調査では、土の色や質を手がかりにして、遺構をみつけます。

掘立柱建物（ほったてばしらたてもの）：地面に穴を掘って柱をたてて屋根を支えている建物です。発掘調査では、地面に残った柱の跡から、掘立柱建物を確認します。

土坑（どこう）：ある程度の大きさと深さをもった穴のことです。